

報告事項2 市立小学校敷地における銃砲刀剣類等の出土について

1 出土作業について

市立田無小学校敷地にて、管理棟移設工事における掘削作業中、深さ約 1 メートルから 2 メートルの地中から、銃砲刀剣類等が出土した。

(1) 作業期間 平成 30 年 7 月 27 日（金）から 8 月 3 日（金）まで

(2) 作業箇所 学校施設開放用管理棟北側 3.4m×4.4m 深さ約 2.0m

2 出土物について

破損や劣化が著しいため正確な数量は把握できない。訓練用手りゅう弾及び銃砲弾については、自衛隊が発見の都度確認し、回収している。その他の出土品は、自衛隊及び警察署との協議に基づき、適切に処分等を行った。

【銃砲：約 1,400 品、刀剣類：約 1,200 品、訓練用手りゅう弾：8 品、銃砲弾：302 品、その他部品等：一式】

3 出土の状況

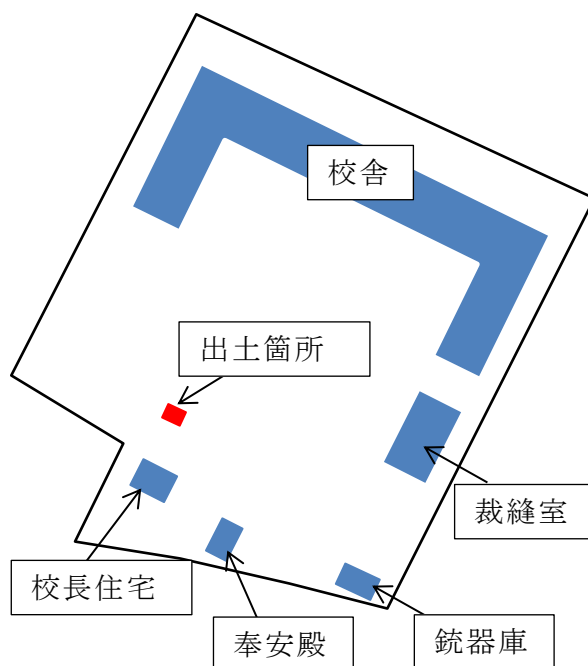


- ・南北約 3.4m、東西約 4.4m、深さ約 1mのきっちりとした長方形の穴が掘られ、その中に埋められていた。
- ・概ね、東西に 3 列に並べられる形で見つかり、その隙間を埋めるように、他の銃類や銃剣類が納められていた。
- ・東端の列の一部は、投込まれたような状態の部分もあった。
- ・埋められた量から、計画的に行われたと思われる。
- ・底や壁の土は焼けて赤く変色しており、また少量だが炭化した木材も発見されたことから、穴の中で焼却のうえ廃棄されたものと思われる。

4 出土した箇所



【当時の校舎等配置イメージ】



5 証言・情報提供

(1) 当時の校長・教員の証言…「田無小学校創立百周年記念誌」座談会より

杉田校長：銃などもみな田無に集めて、ガソリンで焼いた。たきぎの無い時だったから、惜しかった。その火勢で校長住宅のガラスが割れたほどだ。

(2) 市民からの情報提供

- ・ 終戦後、青年学校の倉庫内にあったものを埋めていた記憶がある。
- ・ 陸軍の兵隊が武器を穴に埋めているのを見た。
- ・ 爆弾でできた穴に武器を埋めているのを見た。 など

6 現時点での考察

- ・ 田無国民学校の学校日誌において、昭和 21 年 5 月 27 日に「進駐軍来校調査ヲ行フ」とあった。また、昭和 21 年 11 月 13 日付で、「デューベル中尉」等による進駐軍学校視察に関する書類があった。
- ・ また、定期的に各町村長や団体長（学校・工場）宛に「武器供出ニ関スル御協力方懇講」など、武器等について警察に提出する旨の文書が確認できる。
- ・ これらから、戦後の混乱の中、終戦後教育の徹底のほか、軍国主義を帯びる施設や掲示物の撤去、銃器類の廃棄等についても徹底に努めていたことが推測できる。
- ・ このような中、証言等から、戦後、現田無小学校内において武器類の廃棄が行なわれていたことは確認できたが、具体的な時期は不明である。
- ・ また、出土した量が膨大であることから、一学校で保管していたものとは考えづらいため、市内にあった「陸軍兵器廠田無教育隊」や近隣市内の軍関係施設のほか、工場や私立青年学校などとの関連も考慮する必要がある。